

1月4日：VN指数は年初に1,500ポイントの大台を突破

投資家は2022年のベトナム経済に明るい期待を寄せており、年初最初の株式市場の取引は高値引けとなった。

ホーチミン市場のVN指数は昨年末に超えられなかった節目の1,500ポイントを突破し、1525.58ポイントで取引を終えた。

出来高も増加し、売買高は前日比2%増の8億9,100万株以上、売買代金は前日比10%増の28兆6,000億ドン（12億4,000万米ドル）となった。

中小型株も大きく上昇し、その多くの銘柄がストップ高を付けた。値上がり銘柄にはDIC不動産（DIG）、ベトナム電気設備（GEX）、ホーチミン市インフラ投資（CII）、ホアビン建設グループ（HBC）、LGD投資（LDG）が含まれた。

しかし大型株は引き続きマーケット上昇の牽引役であった。特にビンググループ（VIC）、ビンホームズ（VHM）、ビンコムリテール（VRE）のビンググループ銘柄は3銘柄でこの日の上げ幅の3分の1以上（約10ポイント）を占めた。上昇率を見ると、ビンググループは6.2%高、ビンホームズ、ビンコムリテールはそれぞれ4%近く上昇した。

またペトロベトナムガス（GAS）、サイゴンビール・アルコール飲料（SAB）、ヴィエティンバンク（CTG）、テクコムバンク（TCB）、ベトナムゴム工業グループ（GVR）も大きく買われ、それぞれ1.7～5.9%上昇した。

市場関係者によれば、マーケットは短期的には堅調な値動きで、1月に2021年の第4四半期の決算発表、そして政府の経済刺激策といった株価支援材料が出てくることが予想される。

さらに「VN指数は2022年の第1四半期に1,600ポイントの大台を捉える」と予想する楽観的なアナリストも複数いる。

「マーケットには多くの買い材料があり、1月の第一週に最高値を更新するのに好ましい状態にある。好材料として、新型コロナの経済支援策を審議するために初めて臨時国会が1月4日に開催されたこと、そして第4四半期と2021年通期の決算発表が挙げられる」（MB証券のシニアアナリスト、Ngo Quoc Hung氏）

「2021年のマイナス要因、またオミクロン株の悪材料を吸収し、マーケットは1500ポイントの大台を超えた。現在マーケットには上昇の重しとなる悪材料が少ない」（同氏）

また時価総額別に見て、これまで買われてきた中小型株に比べて割安で、長い間下値を固めてきた大型株により上昇のチャンスがあると予想するアナリストの声もある。

「ファンダメンタルズを考慮しない過度に強気な仕手集団の投資資金が大型株を含むファンダメンタルズが健全な優良株に少しずつ向かっている。そのため、大型株が堅調な値動きを取り戻す可能性はかなり高く、VN指数が高値を更新するにあたって追い風となるだろう」（Yuanta証券のハノイ支社長の Nguyen Viet Quang,氏）

ディスクレイマー

このニュースは、投資の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。投資に関する決定はご自身の判断でなされますようお願い申し上げます。このニュースは、信頼できると考えられる FiinPro という情報源に基づいて作成されていますが、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。このニュースは、Japan Securities Co., Ltd (JSI)から直接提供するという方法でのみ配布いたしております。このニュースのいかなる部分も一切の権利はJSIに帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。